

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-24733

(P2010-24733A)

(43) 公開日 平成22年2月4日(2010.2.4)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
E O 4 D 13/15 (2006.01)	E O 4 D 13/15 A	2 E 1 0 8
E O 4 D 3/40 (2006.01)	E O 4 D 3/40 H	

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2008-188283 (P2008-188283)	(71) 出願人	591042322
(22) 出願日	平成20年7月22日 (2008.7.22)		ニイガタ製販株式会社
			新潟県三条市下保内267番地1
		(74) 代理人	100091373
			弁理士 吉井 剛
		(74) 代理人	100097065
			弁理士 吉井 雅栄
		(72) 発明者	岩崎 正守
			新潟県三条市下保内267番地1 ニイガ
			タ製販株式会社内
		Fターム(参考)	2E108 AA02 AS02 AZ08 BN02 CV09
			DD07 FG01 GG19

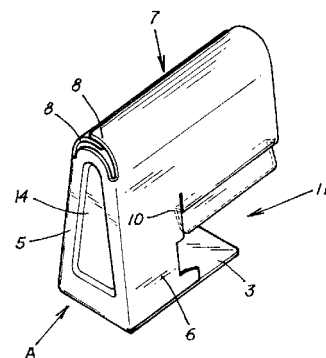
(54) 【発明の名称】 棧鼻

(57) 【要約】

【課題】簡単に嵌合ハゼ部が露出することがなく、且つ秀れた耐久性能を期待できる簡易構造の化粧用棧鼻を提供すること。

【解決手段】底板部3の前側端部に前面化粧板部5を立設状態に連設し、この前面化粧板部5の左右両端部に側板部6を後方に向けて突出状態に連設すると共に、この左右の側板部6は、夫々の上部に前記前面化粧板部5の上端部より上方へ高く突出する突出板部8を有する形状に形成し、この左右の突出板部8を夫々対向内側に向けて折曲すると共に、一方の突出板部8の折曲先端部の下方に他方の突出板部8の折曲先端部が配置するように折曲形成して左右の突出板部8同士を上下に重ねせしめ、この左右の突出板部8の重合部分を天板部7とする。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

屋根材端部の嵌合ハゼ部の下方に配設される底板部と、前記嵌合ハゼ部の軒先側開口部分を被覆して隠蔽する前面化粧板部と、前記嵌合ハゼ部の軒先側の左右側部を被覆して隠蔽する側板部と、前記嵌合ハゼ部の軒先側の上側部を被覆して隠蔽する天板部とから成り、前記嵌合ハゼ部の軒先側に被嵌状態に取り付けられる棧鼻において、前記底板部の前側端部に前記前面化粧板部を立設状態に連設し、この前面化粧板部の左右両端部に前記側板部を後方に向けて突出状態に連設すると共に、この左右の側板部は、夫々の上部に前記前面化粧板部の上端部より上方へ高く突出する突出板部を有する形状に形成し、この左右の突出板部を夫々対向内側に向けて折曲すると共に、一方の突出板部の折曲先端部の下方に他方の突出板部の折曲先端部が配置するように折曲形成して左右の突出板部同士を上下に重合せしめ、この左右の突出板部の重合部分を前記天板部としたことを特徴とする棧鼻。

10

【請求項 2】

所定の展開形状に形成した一枚の板材を折曲形成することで、前記底板部の前端部に前記前面化粧板部が連設し、この前面化粧板部の左右両端部に前記側板部が後方に向けて突出状態に連設し、この左右の側板部の夫々の上端部に、前記左右の突出板部が上下に重合して成る前記天板部が連設する形状に形成したことを特徴とする請求項 1 記載の棧鼻。

【請求項 3】

前記側板部の内側面に、前記嵌合ハゼ部の下側左右部に備えられた凹所に嵌合可能な嵌合凸部を設けたことを特徴とする請求項 1, 2 のいずれか 1 項に記載の棧鼻。

20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、例えば、平葺屋根の嵌合ハゼ部（屋根材の嵌合接続部分）の軒先側を覆い隠して化粧を行うための棧鼻に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

例えば平葺屋根は、屋根下地上に、一側端部に嵌合部が形成され他側端部に被嵌合部が形成された複数枚の屋根材を、その嵌合部と被嵌合部とを嵌合して接続することで葺かれている。

30

【0003】

また、このようにして葺かれた平葺屋根は、隣接する屋根材の嵌合部と被嵌合部との嵌合接続部分（嵌合ハゼ部）の軒先側に開口部が形成されるが、この軒先側開口部を棧鼻と称される部品で覆い隠して化粧している。

【0004】

この棧鼻は、屋根の構造などに応じた様々な形のものが存在しているが、所謂外付けタイプと称されるものについては、屋根材端部の嵌合ハゼ部の下方に差込配設される底板部と、前記嵌合ハゼ部の軒先側開口部分を被覆して隠蔽する前面化粧板部と、前記嵌合ハゼ部の軒先側の左右側部を被覆して隠蔽する側板部と、前記嵌合ハゼ部の軒先側の上側部を被覆して隠蔽する天板部とを具備していて、嵌合ハゼ部の軒先側に被嵌状態に取り付けられる構成となっているものが一般的であり、従来、例えば一枚の金属板を折曲形成することで、底板部の前側端部に前面化粧板部が立設状態に連設すると共に、この前面化粧板部の左右両端部に側板部が後方へ向けて突出状態に連設する構成とし、更にこの左右夫々の側板部の上部を対向内側へ折曲してこの折曲片の先端部同士を突き合わせることににより、この突き合せ状態の各折曲片を、嵌合ハゼ部の上部を被覆する前記天板部に構成しているものがある。

40

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

しかしながら、上記した従来の棧鼻においては、天板部が折曲片を突き合せただけの構

50

造であるため、この折曲片が何らかの要因によって変形を生じてしまうと、折曲片間に隙間を生じて嵌合ハゼ部が露出してしまう場合がある。

【 0 0 0 6 】

また、この種棧鼻は、一般的に金属製であるが、天板部を構成する各折曲片の双方の突き合せ縁が屋根上部に露出しているため、この双方の突き合せ縁から錆を生じ易く、耐久性にやや不安がある。

【 0 0 0 7 】

本発明は、このような従来の棧鼻の問題点を見い出し、これを簡易な改良により解決しようとするのが技術的課題である。

【課題を解決するための手段】

10

【 0 0 0 8 】

添付図面を参照して本発明の要旨を説明する。

【 0 0 0 9 】

屋根材 1 端部の嵌合ハゼ部 2 の下方に配設される底板部 3 と、前記嵌合ハゼ部 2 の軒先側開口部分 4 を被覆して隠蔽する前面化粧板部 5 と、前記嵌合ハゼ部 2 の軒先側の左右側部を被覆して隠蔽する側板部 6 と、前記嵌合ハゼ部 2 の軒先側の上側部を被覆して隠蔽する天板部 7 とから成り、前記嵌合ハゼ部 2 の軒先側に被嵌状態に取り付けられる棧鼻 A において、前記底板部 3 の前側端部に前記前面化粧板部 5 を立設状態に連設し、この前面化粧板部 5 の左右両端部に前記側板部 6 を後方に向けて突出状態に連設すると共に、この左右の側板部 6 は、夫々の上部に前記前面化粧板部 5 の上端部より上方へ高く突出する突出板部 8 を有する形状に形成し、この左右の突出板部 8 を夫々対向内側に向けて折曲すると共に、一方の突出板部 8 の折曲先端部の下方に他方の突出板部 8 の折曲先端部が配置するように折曲形成して左右の突出板部 8 同士を上下に重合せしめ、この左右の突出板部 8 の重合部分を前記天板部 7 としたことを特徴とする棧鼻に係るものである。

20

【 0 0 1 0 】

また、所定の展開形状に形成した一枚の板材を折曲形成することで、前記底板部 3 の前側端部に前記前面化粧板部 5 が連設し、この前面化粧板部 5 の左右両端部に前記側板部 6 が後方に向けて突出状態に連設し、この左右の側板部 6 の夫々の上端部に、前記左右の突出板部 8 が上下に重合して成る前記天板部 7 が連設する形状に形成したことを特徴とする請求項 1 記載の棧鼻に係るものである。

30

【 0 0 1 1 】

また、前記側板部 6 の内側面に、前記嵌合ハゼ部 2 の下側左右部に備えられた凹所 9 に嵌合可能な嵌合凸部 10 を設けたことを特徴とする請求項 1 , 2 のいずれか 1 項に記載の棧鼻に係るものである。

【発明の効果】

【 0 0 1 2 】

本発明は上述のように、左右の側板部の上部の突出板部を折曲してこの突出板部同士を上下に重合することで天板部を構成したから、たとえ一方の突出板部が何らかの要因で変形を生じて、下方に他方の突出板部が配置していることで簡単には嵌合ハゼ部が露出せずに体裁が保たれることとなり、また、下側に配置して隠れている他方の突出板部の上端縁からは錆を生じにくいため、一時期に広範囲に錆を生じにくく、万一錆を生じても一方の突出板部側だけで済む可能性が高いために従来品以上の秀れた耐久性を期待できることになり、しかも、左右の側板部の上部を対向内側へ折曲してこの折曲片の先端部同士を突き合せて天板部を構成していた従来構造に対し、実質的に、左右の側板部を前面化粧板部より高く突出する形状に形成し、この左右の上部突出板部を、一方の突出板部の折曲先端部の下方に他方の突出板部の折曲先端部が配置するように折曲形成して左右の突出板部同士を上下に重合させるだけの構造変更を行うことで本発明は構成可能であるので、この構造変更は簡易に設計実現可能であり、従来品と同等の量産性も容易に確保可能であるなど、極めて実用性に秀れた画期的な棧鼻となる。

40

【 0 0 1 3 】

50

また、請求項 2 記載の発明においては、前記作用・効果を確実に発揮する本発明の棧鼻を、一枚の板材を折曲形成することで簡易に設計実現可能となる極めて実用性に秀れた構成となる。

【 0 0 1 4 】

また、請求項 3 記載の発明においては、嵌合ハゼ部に対して一層強固に取り付けられる極めて実用性に秀れた構成の棧鼻となる。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 5 】

好適と考える本発明の実施形態（発明をどのように実施するか）を、図面に基づいて本発明の作用を示して簡単に説明する。

【 0 0 1 6 】

本発明の棧鼻 A を、屋根材 1 端部の嵌合ハゼ部 2 の下方に底板部 3 を配設して嵌合ハゼ部 2 の軒先側に被嵌状態に取り付けると、前面化粧板部 5 が嵌合ハゼ部 2 の軒先側開口部分 4 を被覆して隠蔽し、側板部 6 が嵌合ハゼ部 2 の軒先側の左右側部を被覆して隠蔽し、天板部 7 が嵌合ハゼ部 2 の軒先側の上側部を被覆して隠蔽することになり、嵌合ハゼ部 2 の軒先側が棧鼻 A によって化粧される。

【 0 0 1 7 】

また、本発明の棧鼻 A は、左右の側板部 6 の上部に形成した突出板部 8 を夫々対向内側に向けて折曲すると共に、一方の突出板部 8 の折曲先端部の下方に他方の突出板部 8 の折曲先端部を配置するように折曲形成して、この左右の突出板部 8 同士を上下に重合させることで天板部 7 を構成しているが、この天板部 7 は、たとえ上側に配置する一方の突出板部 8 が何らかの要因で変形を生じた場合でも、その下方に他方の突出板部 8 が配置しているために、簡単に嵌合ハゼ部 2 が露出してしまうようなことはなく、この嵌合ハゼ部 2 の上側部の体裁が保たれる。

【 0 0 1 8 】

また、上側に配置する一方の突出板部 8 の折曲先端縁だけが外方に露出する態様であるので、この一方の突出板部 8 の折曲先端縁の錆付き易さは従来品と同等であるが、この一方の突出板部 8 の下側に配置して隠れている他方の突出板部 8 の折曲先端縁は、一方の突出板部 8 のそれに比べて著しく錆を生じにくい。

【 0 0 1 9 】

従って、万一方の突出板部 8 の折曲先端縁に錆を生じた場合でも、同時に他方の突出板部 8 の折曲先端縁にも錆を生じる可能性は著しく低いため、一方の突出板部 8 が錆付くだけで済む可能性が非常に高く、よって、左右の側板部の双方の上部折曲片の折曲先端縁（突き合せ縁）から錆を生じ易いために一時期に広範囲が錆付く可能性のある従来品に比べて、本発明品は高い耐久性を期待できる。

【 0 0 2 0 】

また、本発明は、前記底板部 3 の前側端部に前記前面化粧板部 5 を立設状態に連設し、この前面化粧板部 5 の左右両端部に前記側板部 6 を後方に向けて突出状態に連設する構成であるが、この構成自体は従来品と同等であるから容易設計実現可能である。

【 0 0 2 1 】

そして、左右の側板部の上部を対向内側へ折曲してこの折曲片の先端部同士を突き合せで天板部を構成していた従来構造に対して、本発明は、左右の側板部 6 を前面化粧板部 5 より高く突出する形状に形成し、この左右の上部突出板部 8 を、一方の突出板部 8 の折曲先端部の下方に他方の突出板部 8 の折曲先端部が配置するように折曲形成して左右の突出板部 8 同士を上下に重合させるといだけの構造変更を行うことで構成可能であるので、この構造変更は簡易に設計実現可能であり、従来品と同等の量産性も発揮する秀れた棧鼻 A を提供できる。

【 0 0 2 2 】

また、例えば、所定の展開形状に形成した一枚の板材を折曲形成することで、前記底板部 3 の前端部に前記前面化粧板部 5 が連設し、この前面化粧板部 5 の左右両端部に前記側

10

20

30

40

50

板部 6 が後方に向けて突出状態に連設し、この左右の側板部 6 の夫々の上端部に、前記左右の突出板部 8 が上下に重合して成る前記天板部 7 が連設する形状に形成すれば、例えば従来品と同様に、一枚の金属製板材を折曲形成することによって本発明の棧鼻 A を構成可能となるので、従来品と同等の製作容易性と量産性とを発揮することになる。

【 0 0 2 3 】

また、例えば、前記側板部 6 の内側面に、前記嵌合ハゼ部 2 の下側左右部に備えられた凹所 9 に嵌合可能な嵌合凸部 10 を設ければ、凹所 9 と嵌合凸部 10 との嵌合構造により、棧鼻 A は嵌合ハゼ部 2 に対して一層強固に取り付けられることになる。

【実施例】

【 0 0 2 4 】

本発明の具体的な実施例について図面に基づいて説明する。

【 0 0 2 5 】

図 1 , 図 4 は、一側端部に嵌合部 12 が形成され他側端部に被嵌合部 13 が形成された複数枚の屋根材 1 が、その嵌合部 12 と被嵌合部 13 とを嵌合することで接続されて屋根下地 (図示省略) 上に葺かれた平葺構造屋根を示しており、本実施例は、この平葺構造屋根の、隣接する屋根材 1 の嵌合部 12 と被嵌合部 13 との嵌合接続部分である嵌合ハゼ部 2 の軒先側に被嵌状態に取り付け可能な外付けタイプの棧鼻 A に適用した場合である。

【 0 0 2 6 】

本実施例の棧鼻 A は、屋根材 1 端部の嵌合ハゼ部 2 の下方に差込配設される底板部 3 と、前記嵌合ハゼ部 2 の軒先側開口部分 4 を被覆して隠蔽する前面化粧板部 5 と、前記嵌合ハゼ部 2 の左右部を被覆して隠蔽する側板部 6 と、前記嵌合ハゼ部 2 の上部を被覆して隠蔽する天板部 7 とを具備した構成としている。

【 0 0 2 7 】

具体的には、図 2 , 図 3 に示すように、平面視略方形状をなす前記底板部 3 の前側端部に、正面視略二等辺三角形形状をなす前記前面化粧板部 5 を立設状態に連設し、この前面化粧板部 5 の左右両端部に側面視略方形状をなす前記側板部 6 を後方に向けて突出状態に連設した構成としている。

【 0 0 2 8 】

また、この左右の側板部 6 は、夫々の上部に前記前面化粧板部 5 より高く突出する突出板部 8 を有する形状に形成し、この左右の突出板部 8 の夫々を対向内側に向けて折曲すると共に、一方の突出板部 8 の折曲先端部の下方に他方の突出板部 8 の折曲先端部が配置するように折曲形成して左右の突出板部 8 同士を上下に重合させている。そして、本実施例では、この左右の突出板部 8 の重合部分を前記天板部 7 として、この天板部 7 を上から見た際には、嵌合ハゼ部 2 の上側部が完全に隠蔽されて見えなくなる構成としている。

【 0 0 2 9 】

また、前面化粧板部 5 は、その上縁部を半円弧形状に形成し、この半円弧状の上縁部に沿うようにして左右の前記突出板部 8 を湾曲形状に折曲形成して、この湾曲先端縁同士を上下に重合した構成としている。従って、この棧鼻 A を前面から見た際には、左右の突出板部 8 (天板部 7) が不自然に突出せず、略前面化粧板部 5 形をなす外観となって体裁良好となる構成としている (図 3 , 図 5 参照。) 。

【 0 0 3 0 】

また、左右の側板部 6 の夫々の下部には、前後方向に切欠長を有する略方形状の切欠を形成し、この切欠を、棧鼻 A を嵌合ハゼ部 2 の軒先側に被嵌状態に取り付けした際に前記屋根材 1 の軒先側端部が嵌合するための嵌合用切欠部 11 としている。そして、この嵌合用切欠部 11 に嵌合した屋根材 1 の軒先側端部が左右の側板部 6 の下縁と底板部 3 の上面とによって上下から挟み込まれた状態となるように設けて、棧鼻 A が上下方向に外れ止め状態で取り付けられる構成としている (図 4 参照。) 。

【 0 0 3 1 】

更に詳しく説明すると、本実施例では、底板部 3 に相当する部分と、前面化粧板部 5 に相当する部分と、突出板部 8 付の側板部 6 に相当する部分と、嵌合用切欠部 11 に相当する

10

20

30

40

50

切欠部分とを具備する所定の展開形状の一枚の金属板材を、基となる金属板から打ち抜き形成し、この金属板材に設定した所定の折縁位置を折曲することで、略方形形状の前記底板部 3 の前端部に略三角形形状の前記前面化粧板部 5 が略直角上方に折曲されて連設状態に設けられ、この前面化粧板部 5 の左右両端部に略方形形状の前記側板部 6 が略直角後方に折曲されて連設状態に設けられると共に、この左右の側板部 6 の下部に嵌合用切欠部 11 が設けられ、この左右の側板部 6 の夫々の上端部に、前記天板部 7 たる左右の突出板部 8 が前面化粧板部 5 の上縁部の形状に同調する湾曲形状に折曲されて連設状態に設けられる形状の棧鼻 A を構成している。

【 0 0 3 2 】

また、一般的な平葺構造屋根の屋根材 1 の嵌合ハゼ部 2 は、図 4 , 図 5 に示すように、下側左右部に嵌合ハゼ部 2 の中央に向かって凹となる凹所 9 を具備する形状となっているが、本実施例では、棧鼻 A を嵌合ハゼ部 2 の軒先側に被嵌状態に取り付けした際に、この左右の凹所 9 に嵌合する嵌合凸部 10 を、左右の側板部 6 の夫々の内側面に突設している。

10

【 0 0 3 3 】

具体的には、図 4 に示すように左右の側板部 6 の夫々の前記嵌合用切欠部 11 よりやや上側位置を、対向内側に向けて突出する断面くの字状に折曲形成して、この折曲突出部を凹所 9 に嵌合状態に配設する前記嵌合凸部 10 としている。

【 0 0 3 4 】

従って、この左右両側の凹所 9 と左右両側の嵌合凸部 10 との嵌合構造により、本実施例の棧鼻 A は嵌合ハゼ部 2 に対して強固に取り付けられることになり、前記嵌合用切欠部 11 による屋根材 1 への嵌合取付構造とも相まって、特に嵌合ハゼ部 2 に対し上下方向への強固な外れ止め作用を発揮することになる構成としている。また、この凹所 9 と嵌合凸部 10 との嵌合構造は、前記底板部 3 と共に棧鼻 A を嵌合ハゼ部 2 の軒先側へ被嵌しようとする際のスライドガイドとしても機能するので、棧鼻 A の嵌合ハゼ部 2 への取り付け作業が容易に行われることになる。

20

【 0 0 3 5 】

以上のように構成した本実施例の棧鼻 A の使用方法について説明する。

【 0 0 3 6 】

棧鼻 A の底板部 3 を屋根材 1 端部の嵌合ハゼ部 2 の下方に生じている空間部に位置させると共に、棧鼻 A の左右の側板部 6 の嵌合凸部 10 と嵌合ハゼ部 2 の凹所 9 とを位置合わせし、嵌合ハゼ部 2 の奥側へと押し込むように棧鼻 A を操作して底板部 3 を嵌合ハゼ部 2 の下方に差込配設すると共に嵌合凸部 10 を凹所 9 に嵌合すると、棧鼻 A が嵌合ハゼ部 2 の軒先側に被嵌状態に取り付けられる。

30

【 0 0 3 7 】

そして、棧鼻 A の前面化粧板部 5 によって嵌合ハゼ部 2 の軒先側開口部分 4 が隠蔽され、側板部 6 によって嵌合ハゼ部 2 の軒先側の左右側部が隠蔽され、天板部 7 (上下に重合した左右の突出板部 8) によって嵌合ハゼ部 2 の軒先側の上側部が隠蔽されて、嵌合ハゼ部 2 の軒先側が化粧される。

【 0 0 3 8 】

尚、図示していないが、ビスや釘などの固定具を棧鼻 A の外側から嵌合ハゼ部 2 に打ち込みして、棧鼻 A を嵌合ハゼ部 2 に対し強固に固定するようにしても良い。

40

【 0 0 3 9 】

図中符号 14 は前面化粧板部 5 に設けた補強用凹部である。

【 0 0 4 0 】

尚、本発明は、本実施例に限られるものではなく、各構成要件の具体的構成は適宜設計し得るものである。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 4 1 】

【 図 1 】 本実施例の使用状態を示す概略説明斜視図である。

【 図 2 】 本実施例を示す斜視図である。

50

【図 3】本実施例を示す正面図である。

【図 4】本実施例の棧鼻を、嵌合ハゼ部の軒先側に取り付けしようとする状態を示す説明斜視図である。

【図 5】本実施例を示す説明背面図である。

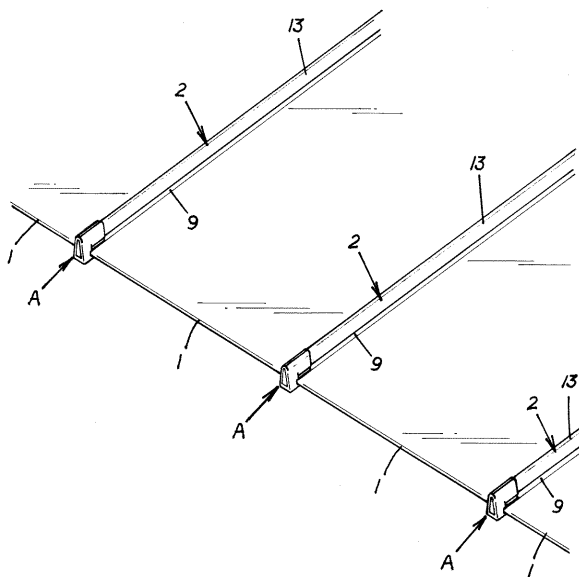
【符号の説明】

【 0 0 4 2 】

- 1 屋根材
- 2 嵌合ハゼ部
- 3 底板部
- 4 軒先側開口部
- 5 前面化粧板部
- 6 側板部
- 7 天板部
- 8 突出板部
- 9 凹所
- 10 嵌合凸部
- A 棧鼻

10

【図 1】



【図 2】

